

# 無線博士の三大陸漂流記

中村 康久

工学博士。

NTTドコモで米国、フランス、ブラジルのオフィス駐在を経験し、現在はITS推進室室長。

## [ 第1回 ]

### プロローグ：ワイアレス、異文化生活、グローバル化

90年代以降の無線通信技術は、80年代のいわゆるPC革命以降で、最大ともいえる驚異的な発展を見せた。特にケータイシステムは、人々の生活様式、企業のマーケティング、さらには学校や塾といった教育シーンにまで大きな変革をもたらした。もちろんこの発展の背景には、発売当初はショルダーホンと呼ばれ肩にかけても余りある大きさの移動機端末が、年々小型化するという技術的進歩があった。例えば筆者が子どもの頃に父親に連れられて見た傑作SF映画「2001年宇宙の旅」の中に出てくるスマートアンテナ、音声認識、TV電話、データ通信といった夢の技術は、今は10代の子供達や70代のシニアが何気に友人や孫とのメール交換やチャットとして楽しんでいる。

ケータイがここまで一般化したことに大きく寄与したi-modeの誕生とその後の発展については、すでに多くの著書や解説記事がある。しかし考えてみればまだまだ謎も多い。

例えばケータイは、「なぜインターネット先進国の米国ではなく日本で生まれたのか」「なぜ固定電話インフラを用いて同様のサービスを企画したLモードは泣かず飛ばずなのか」「なぜ車とケータイの融合は遅々として進まないのか」「なぜ日本では人気の無いサービス、例えば欧州ではSMS(ショートメッセージサービス)、北米ではPDAが人気があるのか」など。

カナダのある社会学者は以前、新しい社会システムの到来を次のように予言した。

“世界はいずれグローバルビレッジになる”

“それは電子的メディアにより実現されるであろう”

近年、我々に世界はまさにグローバルビレッジであるということとを再認識させる悲劇的イベントがいくつかあった。2001年9月の米国での航空機テロ事件や2005年のインドネシア地区の

津波大災害である。これらの大事件は、マスメディアはもちろんのこと、PCやケータイインターネットという個人向けの電子メディアで瞬時に世界中を駆け巡った。

筆者はこれまで無線技術者としてフランス、リオデジャネイロ、そしてシアトルという言葉、気候、風土、文化の全く異なる3大陸に子ども3人を伴い赴任し生活をするという貴重な経験をした。その過程で家族それぞれが言葉の問題や学校生活を含め様々な困難にも直面したが、何とか一致団結して乗り切ってきた。フランスでは日本人が他に誰もいないブルターニュ地方の人口5千人の小さな町に住み、当時2歳の娘は保育園で生まれて初めて目の青い先生を見て文字とおり目を丸くした。地球の裏側リオでは治安の悪化という負の側面がある一方、サッカーや音楽ということと人生を楽しむラテン気質を目の当たりにした。リオから直接家族で異動した森と湖とマイクロソフトの町シアトルでは豊かな自然と素朴な米国人の本当の姿を見て感動した。

これらの生活体験を今から振り返って見ると、先ほど触れたケータイをめぐるいくつかの疑問は、グローバル化の影響や大陸ごとの文化の違いという視点に立つと、ひも解けてくるのではないかと考えるようになった。

ケータイに代表される無線通信と世界のグローバル化は、通信機器やコンテンツ、サービス内容に違いこそあれ、それぞれ自由な移動性(モビリティ)を持つことで実現される新たな価値という点では共通である。ただ、無線通信の利用シーンが大陸ごとに異なるのは、それぞれが持つ文化や風土の違いが味付けをしているのだ。

この連載では、この一見無関係に見える3つの関係について、一技術者家族の欧州、北米、南米での滞在を通じた異文化体験を紹介しながら考えていきたい。



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)